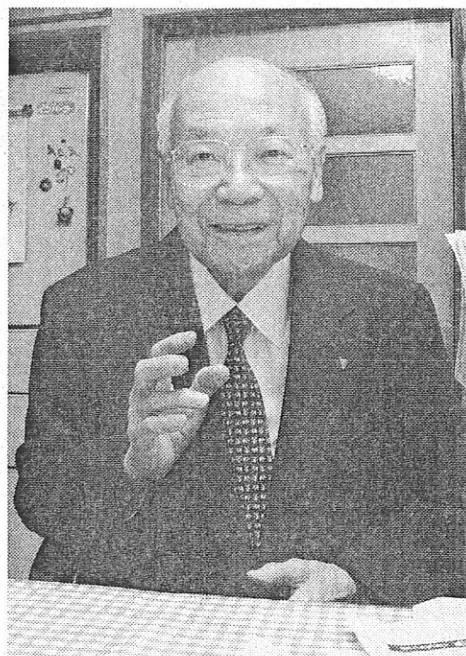


瑞宝双光章

保富 定さん(86)

田辺市湊



田辺工業高校(田辺市あけぼの)の学校医を1970年から今年3月まで44年間務めた。「長く務めさせてくれて光栄。子どもと接することが活力になりました」

50年に県立医学専門学校(現県立医大)を卒業し、翌年に県立医大病院整形外科の研修生となった。県立結核療養所整形外科勤務や県立医大病院助手などを経て、61年から8年間、紀南病院整形外科部長を務めた。70年に保富整形外科を開業。その年の春、田辺工業の学校医になった。

当時の生徒数は約700人。健康診断は1人で4日間ほどかかった。「あまりの多さで、聴診器を使っていた耳が痛くなり、途中休憩させてもらった」と振り

返る。

内科検診だけでなく、整形外科医の経験から、脊柱や胸郭、関節の異常などにも目を配った。「例えば脊柱側湾症。今も昔も少なくなはない。生まれつきや乳幼児期での寝かし方であり、腰や背中が痛くなる。高校生までに矯正すれば治る」。クラブ活動でのけがも数多く診てきた。

10年ほど前、小学生の孫を病院に連れてきた50代の男性から「高校生のころ、先生に診てもらった」と言われ、長い間続けていることを実感した。

学校医のほか田辺市医師会や県医師会の役員は退いたが、医師は現役。「健康で長く続けられるのが一番いい」